

11月11日（火）ラ コリーナ近江八幡を訪問しました！

対談
テーマ

障害者が働きやすい環境づくり
-誰もが働きがいを感じることができる職場環境について-

第3回の対談ではラ コリーナ近江八幡を訪問し障害者雇用について意見交流を行いました。前半は館内を案内していただき、実際に職員のみなさんが働いておられる姿を拝見したり、インタビューさせていただいたりしました。後半では見学させていただいたことを踏まえて意見交換を行いました。

訪問した教育委員

塚本 晃弘 委員 野村 早苗 委員 窪田 知子 委員

館内見学



館内見学では実際に働いている職員の方とお話しすることができました。どの職員も自分の仕事に強い責任感とやりがいを感じておられました。自分の作ったものをお客さんが手に取って購入してくれる、そのことに大きな喜びを感じているとのことでした。また、入社したての頃は人と話すことに苦手意識があったが、勉強するにつれ知識も増え、今ではお客様に質問されてもスムーズに答えられるようになったという話も聞かせてもらいました。

意見交換より

- 委員：館内を見学させていただき、誰もが働きやすい場所、環境を作っておられることが分かりました。教育現場の「個別最適な学び」を職場でも実現されていると感じました。雇用される際、試験があったり、また雇用の条件があったりするのでしょうか。
- ラコリーナ：本人の希望や、学校からの紹介で来られる生徒もいます。入社前には実習があり、季節にあわせた実習を行ったり、1週間くらいの実習を行ったりしています。また製造・物流の仕事にも実習があります。仕事の中には自分のペースでできない仕事もあります。製造ラインで流れてくる商品をスピードに合わせた確に処理できるかなども見えています。
- 委員：館内を歩きながら自然をたくさん感じる事ができました。それぞれの植物について、とても丁寧に植え替えまでされていると知り驚きました。また、実際に働いておられる方とお話しでき、その言葉からとてもやりがいを感じておられることが伝わってきました。一人ひとりの個性を大切に適材適所の部門で働かれているように思いましたが、これまで何年くらい勤務されているのでしょうか。
- ラコリーナ：長い人で7～10年働いていただいています。入社当初は全くしゃべれなかった職員もいます。お客様に声をかけられることがストレスになっているのではと思ったこともありましたが、本人がどんどん知識を増やし、お客様にお話しできる内容も増えたことで、お客様との会話を楽めるようになりました。また、中には「ストップ」をこちらから言わないとずっと作業し続ける職員もいます。自分のしんどさが分からない部分もあるので、ペアを組んで仕事ができるようにしています。また、順調に仕事をこなしていると思っていた職員が急に辞めたというケースもあります。仕事ができるから任せていた部分があったのですが、本人からすると自分の仕事ぶりが正しいのかすごく不安だったそうです。きちんと評価し、それを伝えることも大切だと知りました。



委員：採用するにあたり、どんなことを学校で経験しておいてほしいと考えますか

ラコリーナ：いろいろなところで就業体験をして社会へ出ることが大切だと思います。また先生の視点だけでなく、その子どもに本当にあったもの、好きなものを見出してほしいと思っています。

委員：働く上でどのような支援をしておられますか。視覚的な支援などはされていますか。

ラコリーナ：紙に書いて視覚的に支援するようにとアドバイスをもらったこともあります。現状では取り入れることが難しいです。支援の一番は「人」だと思います。何世代にもまたがる従業員層の中で、父親的存在、母親的存在の職員がおり、それぞれの立場から声をかけてくれています。その声掛けで成り立っています。

ラコリーナ：「(清掃の担当をしている職員に)どこまでやったらきれいなのか」という感覚を伝えるのはすごく難しいため、明確に「この状態まで」と伝えることが大切だと思います。また、補充の仕事を頼むときには「ここまで減ったら補充する」というような目安を伝えるように心がけています。他にも「やっておいで」というような指示では混乱してしまう職員もいます。後でトラブルになるのを避けるためにも「どこまでやっておく」のかゴールを明確にすることを意識しています。

ラコリーナ：誰が見てもわかる目安は必要です。時間管理は日報を書いてチェックしていますが、一つの作業に時間がかかってしまうことがあれば、その理由を探り、本人にも考えてもらうようにしています。また字を書くことを苦手としている職員が多いので、「書く」ということを大切にしています。

教委：学校生活における様々な配慮が、生徒が社会で生きていくための支援にどう繋がるか振り返ることができました。また、教員側が「この生徒にはこれが向いているだろう」と思い込んでしまわないよう気を付けたいと思いました。時間のしぼりはありますが、いろんな体験をさせることを大事にしたいと改めて感じました。また、中学校での職場体験も大切にしていきたいですし、校外学習では楽しむだけでなく、どう働いているかを見る機会も今後必要だと思いました。

ラコリーナ：学校はその子の良い部分をたくさん伝えてくれますが、他にもコミュニケーションについての課題などは率直に教えてほしいという要望はあります。また、仕事に向き合うまでの生活リズムはとても大切なので、家族のサポートがどれだけあるかもきちんと教えてほしいと思います。在学中はお金を払って学校に通っていますが、働くということは企業や個々の成果に合わせてお金を受け取る側になります。このようなことも理解いただけるよう学校でもしっかり伝えてほしいと思っています。